

キリストの光のキリスト

年間第25主日 9月21日

(マタイ20・1-16)

「仕事」とは仕えること。

わたしたち一人一人には使命がある。自分の命を使う目的がある。それは神から与えられたもの。

一人一人に「ぶどう園」で働

く仕事を与えられている。「ぶど

う園」で働くこと、それは「天

の国」で働くこと。それは、この

世界を「天の国」にしてい

わたしたちは神から呼び掛けられ

て仕事を与えられ、そして同じ報

酬を得る。その報酬は喜び。

労働は本来は実りを得る喜び

の業。

創世記の創造物語。

：神はアダムに向かつて言わ

れた。「お前は女の声に従い、

取って食べるなど命じた木から食

べた。お前のゆえに、土は呪われ

仕事 — 仕えること

るものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。お前に対して土は茨とあざみを生えいでさせる。野の草を食べようとすお前に。お前は顔に汗を流してパンを得る。土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に返る。…主なる神は、彼をエデンの園から追い出し、彼に、自分がそこから取られた土を耕させることにされた」(創世記3・17-19、23)

実りを得る労働は喜びであるはずなのに、苦しみが伴う。人は汗して土から糧を得る。なぜか？ それは今だに人類の疑問の一つである。命の誕生は喜びなのに、産みの苦しみが伴う。男女が愛し合うのは喜びなの

に、苦しみが伴う。それもまた人類の永遠の疑問である。

創世記はその答えを人間の罪の結果として伝える。

神は人間をこのような状態から救うためにキリストを遣わされた。それは「自分のぶどう園で



働く労働者を雇うためであった。

わたしたちの仕事は、仕える

仕事であり、それはこの世界を神のお望みになる世界に変えていくこと。神の創造の業に

仕えること。手伝うこと。神

はわたしたちの助けを必要としている。わたしたちの労働は神の業となつていく。

神はわたしたちに期待している。わたしたちは命を与えられてこの世界に生まれてきた。自然に、偶然に生まれたの

ではない。神に望まれて生まれてきたのである。人生の意味、人が生きる意味ははっきり

している。それは、今もなお続いている神の創造の業に参与すること。神はわたしたちの協力なしにこの世界を完成することはできない。

この世界。自我自欲に満ちた世界。自分で生きる目的を決め、それを目指し、その目的

達成のために人を使う。きよ

うの福音個所にはイエスの受難と復活の予告が続く。低みから仕えることを教える。「人

の子が来たのは、仕えてもらうためではなく、仕えるためであり、多くの人の解放の代価として、自分自身を差しだすためである」と主は言われる。

仕事…仕えることが生きる目的。

(山元眞||福岡教区司祭/カット||高崎紀子)

今週の福音

- 22日・月ルカ 8:16-18
- 23日・火ルカ 8:19-21
- 24日・水ルカ 9:1-6
- 25日・木ルカ 9:7-9
- 26日・金ルカ 9:18-22
- 27日・土ルカ 9:43b-45